

日野市横断歩道橋長寿命化修繕計画



令和4年10月

日野市 まちづくり部 道路課

目 次

- 1 横断歩道橋長寿命化修繕計画の目的
- 2 横断歩道橋長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋
- 3 横断歩道橋の長寿命化及び修繕・架替えに係わる費用の縮減に関する基本的な方針
- 4 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針
- 5 横断歩道橋長寿命化修繕計画策定の考え方
- 6 横断歩道橋長寿命化修繕計画による事業計画
- 7 横断歩道橋長寿命化修繕計画による効果

1 横断歩道橋長寿命化修繕計画の目的

【目 的】

日野市は現在3橋の横断歩道橋を管理しています。これらの横断歩道橋は今後、老朽化し、架替えによる財政負担が大きくなることが懸念されています。計画的かつ予防的な修繕を行うことで横断歩道橋の長寿命化を図り、老朽化する横断歩道橋の維持管理コストの縮減と予算の平準化を行うことを目的とします。

【計画期間】

令和4年度から令和13年度

2 横断歩道橋長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋

横断歩道橋長寿命化修繕計画の対象とする横断歩道橋は、管理横断歩道橋全ての3橋としています。

令和4年度(2022年度)計画策定横断歩道橋数

3 (橋)

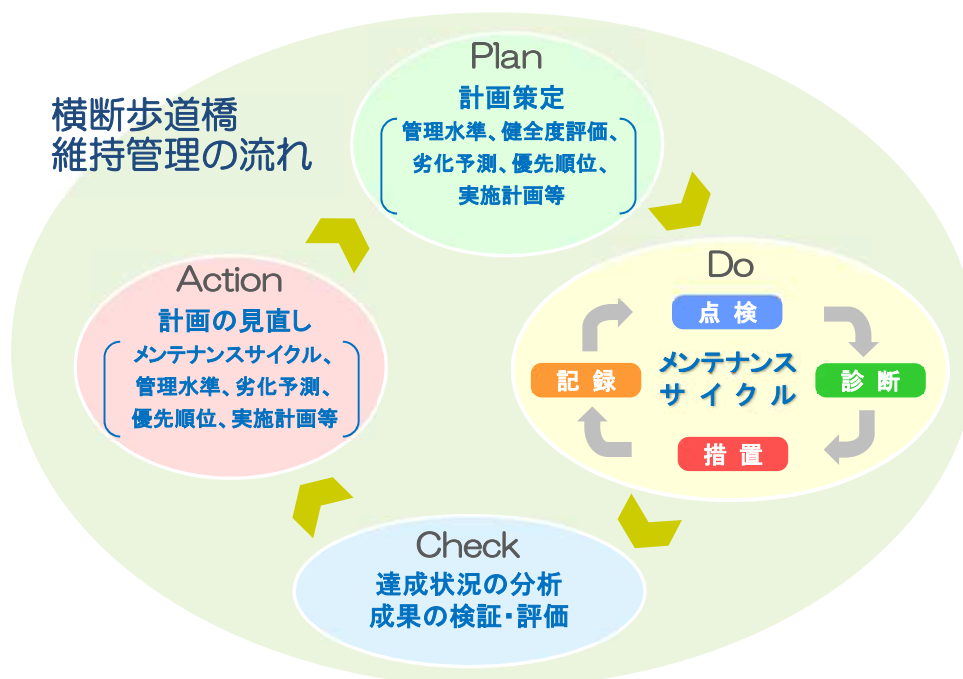
3 横断歩道橋の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

日野市では、平成28年度から横断歩道橋の点検を行っており、今後も定期的に点検を行っていくことで安全確保に努めていきます。

横断歩道橋の長寿命化及び修繕・架替えに係わる費用の縮減に関する基本的な方針は以下の通りです。

- ◆ 横断歩道橋の健全性を把握するため、定期的に点検を行います。
- ◆ 対症療法的な従来型管理から、劣化の進行を予測した上で、損傷が深刻化する前に修繕を行う計画的な管理へ転換し、横断歩道橋の長寿命化を図るとともに、修繕・架替えに係わる費用の縮減を図ります。
- ◆ 点検結果より健全性の評価を行い、「跨線横断歩道橋」「跨幹線市道Ⅰ号線横断歩道橋」を重要度の高い横断歩道橋とし、各横断歩道橋の特性に応じ優先順位を決定した上で、対策実施の優先順位付けを行います。

- ◆ ライフサイクルコストを試算し、最適な修繕計画を策定し、横断歩道橋に係わる維持管理コストの平準化を図ります。



4 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

健全度把握の基本的な方針

横断歩道橋長寿命化修繕計画の対象横断歩道橋については、横断歩道橋の架設年度や立地条件等を十分考慮しながら、横断歩道橋の状態を早期かつ的確に把握するために『横断歩道橋定期点検要領』（国土交通省 道路局 平成31年2月）及び『歩道橋定期点検要領』（国土交通省 道路局 国道・技術課：平成31年3月）に基づいて5年に1度の定期点検を実施します。

日常的な維持管理に関する基本的な方針

土砂撤去等の損傷要因の除去を目的とした日常的で地道な軽作業を行っていくことが、横断歩道橋の長寿命化に対して極めて有効となります。横断歩道橋点検、損傷に対する修繕等と併せて、横断歩道橋における損傷の進行の予防を目的として、清掃等の日常的維持管理の実施に努めます。

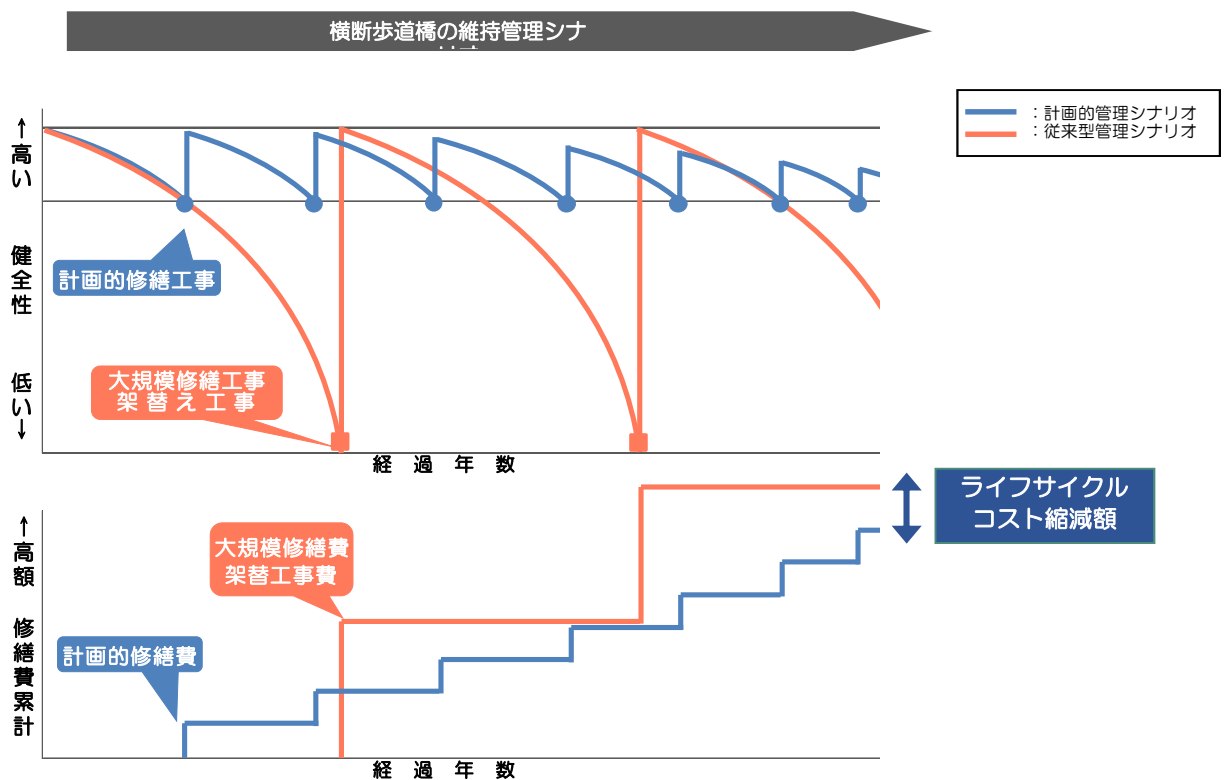
5 横断歩道橋長寿命化修繕計画策定の考え方

- ◆ 『横断歩道橋定期点検要領』（国土交通省 道路局 平成31年2月）及び『歩道橋定期点検要領』（国土交通省 道路局 国道・技術課：平成31年3月）に基づいた点検を行い、その結果から現状の損傷把握と健全性を評価します。

〔「横断歩道橋定期点検要領」による判定区分〕

良 ↑ 悪 ↓	区 分		状 態
	I	健全	横断歩道橋の機能に支障が生じていない状態。
	II	予防保全段階	横断歩道橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
	III	早期措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
	IV	緊急措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

- ◆ 「跨線横断歩道橋」「跨幹線市道Ⅰ号線横断歩道橋」を重要度の高い横断歩道橋とし、各横断歩道橋の特性に応じ優先順位を決定します。
- ◆ 維持管理シナリオを設定し、修繕時期あるいは架替え時期の検討を行います。
 - ・計画的管理シナリオ・・・定期的に点検を行い、損傷が深刻化する前に修繕を実施すること。
 - ・従来型管理シナリオ・・・損傷が深刻化してはじめて大規模な修繕あるいは架替えを実施すること。
- ◆ 各管理シナリオについてライフサイクルコストを比較し、経済性の優れた計画を策定することにより、横断歩道橋に係わる維持管理コストの平準化を図ります。
- ◆ 策定した計画に基づいて修繕・架替えを実施します。また、定期的な点検と計画の見直しを実施し、一連のサイクルを繰り返して、横断歩道橋の長寿命化を図ります。



6 横断歩道橋長寿命化修繕計画による事業計画

横断歩道橋長寿命化修繕計画では、定期的な点検や計画の見直し、計画的な修繕等により横断歩道橋の長寿命化を目指します。対象横断歩道橋ごとの次回点検時期や修繕時期については、下表に示す条件により決定します。

	事業の基本的な実施時期
点 検	点検は、5年ごとに行います。
事業計画見直し	事業計画は、定期的に見直しを行います。
修繕設計	修繕設計は、計画された補修工事を実施する前に行います。
修繕工事	修繕工事は、単年度に集中しないように複数年に振り分けます。

対象横断歩道橋ごとの概ねの次回点検時期及び補修内容・時期

No	橋梁名	構造形式	橋長 (m)	幅員 (m)	架設 年次	供用年数 (2022年 を基準)	最新点 検年次	所在地	判定 区分	点検年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
1	日野台歩道橋	鋼筋コンクリート(橋脚:不明)	45.5	1.7	1969	53	H29	日野市日野台三丁目	Ⅲ	H29	△	●				△				
2	三軒橋歩道橋	中橋式2主桁鋼桁橋	43.6	2.9	1968	54	R3	日野市日野台三丁目	Ⅲ	R3	○			●	△					△
3	平山踏切人歩道橋	鋼桁橋(橋脚:鋼桁)	74.6	2.7	1967	55	R3	日野市東平山三丁目	Ⅲ	R3			○		△●					△

【凡例】

- △ : 委託点検
- : 修繕設計
- : 修繕工事

7 横断歩道橋長寿命化修繕計画による効果

横断歩道橋長寿命化修繕計画を策定することによる効果は以下ようになります。

横断歩道橋の長寿命化

点検や修繕を計画的に行う計画的な管理シナリオの横断歩道橋は、重大な損傷が発見されるまで修繕を行わない従来型管理シナリオの横断歩道橋に対して長寿命化が図れます。

安全性の確保

従来型管理シナリオでは重大な損傷が発見されるまで放置されるため、健全性の低い状態にあってもその把握ができずに危険な期間が生じる可能性があります。常に健全性を把握し計画的に修繕を実施することによって、安全性が持続的に確保されることになります。

ライフサイクルコストの縮減

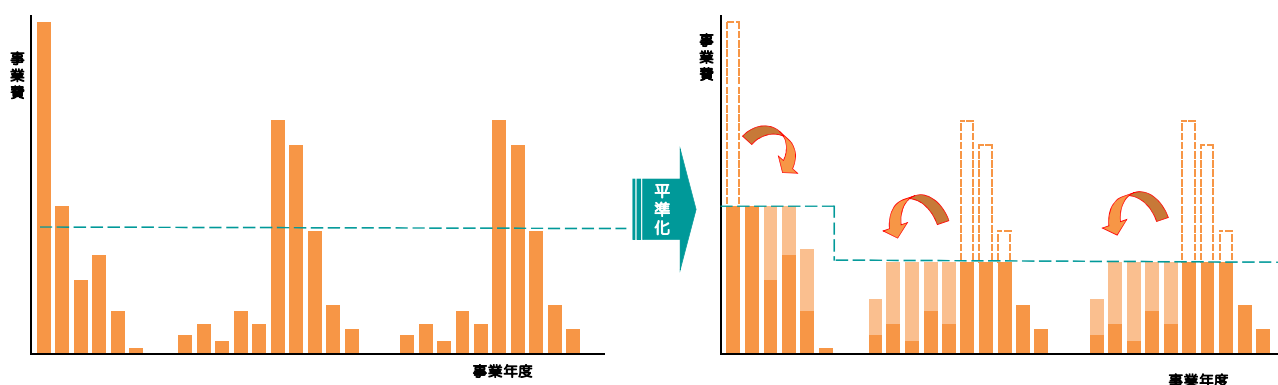
計画的に修繕を行い横断歩道橋の寿命を適切に管理することにより、架替えや大規模修繕によって工事費が大きくなる対症療法的な管理よりもライフサイクルコストの縮減が図れます。

対象横断歩道橋の計画的管理シナリオと従来型管理シナリオの累計維持管理費を算定しました。その結果、計画的管理シナリオが従来型管理シナリオの49%程度になり、50年間で約18億円の縮減効果が見込まれます。

	従来型管理シナリオ	計画的管理シナリオ
累計LCC	約35億円 (100%)	約17億円 (49%)

維持管理コストの平準化

維持管理に係わる費用が短期間に集中しないよう修繕実施時期を計画することにより、維持管理コストの平準化が図れます。



新技術等の活用などに関する短期的な目標の設定

◆ 新技術等の活用について

令和8年度までに、管理する全横断歩道橋で定期点検及び補修工事について新技術の活用を検討し、補修する1横断歩道橋で従来技術を活用した場合と比較して約4百万円のコスト縮減を目指します。

また、補修設計に伴う詳細調査が必要になった場合には、調査方法について新技術の活用を検討します。

◆ 撤去について

横断歩道橋は供用開始後50年以上が経過し、老朽化及び利用者の減少が進む中横断歩道橋の必要性について検討し、撤去の可否を令和8年度までに全管理横断歩道橋について検討します。

◆ 費用縮減について

補修設計の際、ライフサイクルコストの観点进行考慮し、有効な工法・材料を採用することにより、工事費の費用縮減を目指します。

日野市は、令和2年2月に財政非常事態宣言を行い、令和3年度より財政再建期間となっている状況であることから、できる限りの費用縮減を目指します。

◆ フォローアップについて

5年に1回実施する定期点検の結果、社会情勢の変化や計画の進捗状況等、必要に応じて本計画の見直し(フォローアップ)を行います。

計画策定担当部署

◆ 日野市 まちづくり部 道路課 TEL 042-514-8422